

教員長期社会体験研修 4～6月期 研修報告

【研修先：北海道コカ・コーラボトリング株式会社】【研修者：東橋小学校 沢田 涼佑】

【担当部署】広報・CSR 推進部 広報・CSR 推進課

CSR とは…？

Corporate Social Responsibility（企業の社会的責任）の略称。北海道コカ・コーラ（株）では、「北の大地とともに」をスローガンに、「環境」「食の安全と健康」「地域社会」の領域に沿って、責任ある道産子企業として北海道の持続可能な社会の実現を目指した活動を幅広く実施している。

水資源保護の推進

水資源を利用して事業活動を行う企業として、製品に使用した量と同等の水を自然に還元する取組や、事業活動を通じた北海道の環境保全活動、環境教育の推進。

<環境>

高品質で安心・安全な製品の提供

独自の基準による製品の品質管理。上質な牛乳など道産原料を多く使用することで道内製造によって原料の生産地と製品の消費地が近くなり、環境負荷低減と、地産地消を応援。

<食の安全と健康>

災害時の情報・製品提供

行政や自治体等との協定に基づいた様々な活動と YOSAKOI ソーラン祭りなど、道産子企業として取り組むべき健全な地域づくり。

<地域社会>

事業活動 <水源での森づくり、ボランティア除雪等> を通じて企業の社会的責任を果たすことで、**持続可能な** CSR 活動に取り組むとともに、その企業風土を育てる = CSR 推進部の役割の 1 つ

今回の報告では、4～6月の3か月で私が関わった大きなイベント業務について紹介します。

◆ 4月に取り組んだ主なイベント業務

【北海道コカ・コーラボトリング×道新総合印刷 コラボ企画・工場見学スタンプラリー】

小学校でもおなじみの清田区の2つの工場を一週間のうちに両方見学すると、特別なプレゼントがもらえるという企画でした。4/3(水)は両社のマスコットキャラクターに会えるということで、工場見学は大賑わい！マスコットキャラクター「Qoo」をアテンドしたり、写真撮影に来た子どもたちを並ばせたりする業務（←これは得意分野！）を担当しました。

【北海道 e-水プロジェクト キックオフイベント】



製品のディスプレイに四苦八苦

当社が製造・販売するコーヒー「ジョージアサントスプレミアム」北海道限定デザインの売上げの一部を公益財団法人北海道環境財団に寄付し、それを北海道の水辺の環境保全に取り組む団体の支援に活用するプロジェクトのスタートのイベント。北海道、同財団と当社が三者協働で行うプロジェクトで、10年目を迎えた今年は「赤レンガ庁舎」でイベントが行われました。

当日は会場準備から、進行、片付けまでを道庁の環境生活部と北海道環境財団、そして当社の広報 CSR 推進部が行いました。「赤レンガ庁舎」は秋から改修工事が決まっている国の重要文化財で、会場は2階会議室。明治21年建築の建物にはエレベーターがなく、ドリンクのケースを持って急な階段を数往復…。私は1回で1箱（555mLPETが24本＝13.3kg！）を運ぶのがやっとの急階段を、課長はこともなげに「2箱」背負って運びます。北海道コカ・コーラでは若い頃に営業職を経験している社員がほとんどで、先輩社員の動きには驚かされるばかりでした。

イベントの最中も受付、機材の出し入れやマイクランナーなど大忙し。裏方として、イベント運営に携わりました。



赤れんが庁舎の急階段。エスカレーターはありません…。

◆ 5月に取り組んだ主なイベント業務

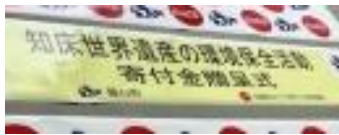
【コカ・コーラ環境教育賞 応募呼びかけ】

「コカ・コーラ環境教育賞」とは、コカ・コーラ環境財団が地域に根ざした環境教育・環境保全活動を促進することを目的に設立した、公募型の賞です。今年で26回目を迎え、毎年8月に栗山町にある「雨煙別小学校コカ・コーラ環境ハウス」に全国から受賞団体が集まり、最優秀賞を決める最終選考会が行われています。

私は北海道内の応募団体を増やすために、応募の呼びかけや推薦団体の選考と依頼に当たりました。全道の学校や団体に「飛び込み」で電話をしてアポイントメントをもらい、訪問しました。札幌市教育委員会の協力もあり、札幌市内の学校からも複数の応募がありました。



【知床応援自動販売機寄付金贈呈式】



世界自然遺産に登録された知床の環境保全のために、斜里町・羅臼町内すべての当社の自動販売機の売上1本につき1円を両町に寄付する取組の贈呈式。CSR推進部が関わる北海道内のイベントは基本的に札幌の本社が現地事業所と連携をとりながら企画・運営を行います。両町への贈呈式は私が1人で担当する初めてのイベントとなりました。

事前に日程調整や現地販売課との打ち合わせ、寄付金の計上、マスメディアへのニュースリリースやバックパネル、目録(写真参照)などの資料の作成などを行いました。当日は早めに役場に入り、挨拶をしてから会場のセッティング、マスコミの対応、写真撮影などを行いました。記者の質問に対して即座に答えることができず資料を開いてしまうことがあり、事前に数字などの情報をしっかりと把握しておく必要性を学びました。



◆ 6月に行った主なイベント業務

【第28回 YOSAKOI ソーラン祭り】



100本以上の蓋を開けました！

北海道コカ・コーラは、YOSAKOI ソーラン祭りの協賛として、会場での製品・グッズ等の販売を行う他に、清田区の国際大学のYOSAKOIチーム「コカ・コーラ札幌国際大学」を応援しています。広報は1年を通してこのチームのサポートやマネジメントを担当しており、YOSAKOI ソーラン祭りの期間中は私を含めた部のスタッフがほぼ総動員となりました。

私は給水を担当し、チームの荷物の運搬をしたり、パレードの給水所でチームのメンバーの飲料を準備したりしました。給水所では踊り子さんがすぐにドリンクを飲めるよう、事前にPETボトルの蓋を開けておき、踊り子さんがきたタイミングでどんどんドリンクを渡していきます。パレード真っ最中の踊り子さんたちの熱気を間近で感じ、こちらも自然と笑顔になります。

コカ・コーラ札幌国際大学は、強豪ひしめく⑧審査ブロックを見事に一位で突破し、ファイナル進出を果たしました。控室でファイナル進出を知った時のメンバーの喜びは、まさしく青春そのもの。踊り子さんたちの1年間の努力が報われた瞬間でした。YOSAKOIで受けた刺激、そして彼らの熱量は、教師としての非常に貴重な経験となりました。



◎ 3か月を振り返って

この3か月は、学校の時とは比べ物にならないほど電話やメールを活用しました。回数を重ねていくうちに、電話とメールの使い分けを意識するようになりました。相手のワークスタイルに応じることはもちろんですが、基本的にファーストコンタクトや大まかな内容を伝える時は電話で、細かいやりとりや記録を残したいときはメールを使うようになりました。また進捗報告も兼ねて、上司に「CC」で連絡メールの内容を「共有」することの大切さを実感しました。先方も忙しいため思うように予定が進まないこともありましたが、粘り強く丁寧に連絡をとり続けることの大切さを実感しました。